平成 23 年 11 月 11 日
株式会社富士ピー・エス

平成 24 年３月期第２四半期決算（４月～９月累計）説明資料

【当第２四半期業績の概要】

１．受注高につきましては、民間建設投資は回復傾向にあるものの、公共事業は依然低水準で推移していることから、6,621 百万円（前年同四半期比 6.0%減）となりました。

受注高の内訳について、土木事業は技術力・提案力・積算力の向上に取り組み、総合評価入札方式への対応を一層強化して営業活動を展開しましたが、東日本大震災の復旧・復興事業や耐震事業等を除けば、公共事業は依然低水準で推移していることから、4,418 百万円（同 8.0%減）となりました。一方、建築事業はマンション事業が回復傾向にあることや政府による学校施設等の耐震化が推進されていることから、当社の独自商品である「ＦＲ板」や「パラレル構法」の営業強化に努めた結果、1,984 百万円（同 3.2%増）となりました。また、不動産賃貸事業はテナント獲得の競争激化などから、218 百万円（同 4.4%減）となりました。

２．売上高につきましては、土木事業の前期繰越工事の減少や東日本大震災の影響などにより工事進行基準による売上高が減少したことから 8,671 百万円（前年同四半期比 3.8%減）と 2 期連続の減収となりました。

売上高の内訳は、土木事業 6,235 百万円（同 9.2%減）、建築事業 2,326 百万円（同 17.3%増）、不動産賃貸事業 108 百万円（同 4.2%減）であります。

３．損益につきましては、採算性を重視した選別受注の徹底や工事施工の効率化、原価管理の徹底などを一層進めたことで黒字を確保しておりますが、売上高の減少に加え、工事利益率の低い工事の割合が増加したことなどから、営業利益 159 百万円（前年同四半期比 72.9%減）、経常利益 184 百万円（同 68.2%減）、四半期純利益 111 百万円（同 80.2%減）とそれぞれ 2 期振りの減益となりました。

当第２四半期（４月～９月累計）実績と前年同期実績との比較　（単位：百万円）

項　目	当四半期実績	前四半期実績	増減額	増減率	備　考
受　注　高	6,621	7,042	△421	△6.0%	２期連続の減少
売　上　高	8,671	9,012	△341	△3.8%	２期連続の減収
営 業 利 益	159	588	△428	△72.9%	２期振りの減益
経 常 利 益	184	581	△396	△68.2%	２期振りの減益
四半期純利益	111	562	△451	△80.2%	２期振りの減益

【参考資料】

セグメント別受注高、売上高、繰越高

①受注高

項目	前第2四半期累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）		当第2四半期累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）		増減金額	対前期比
	金額	構成比率	金額	構成比率		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木事業	4,803	68.2	4,418	66.7	△ 384	92.0
建築事業	1,923	27.3	1,984	30.0	61	103.2
不動産賃貸事業	228	3.2	218	3.3	△ 10	95.6
その他	87	1.3	0	0.0	△ 87	0.1
合　計	7,042	100.0	6,621	100.0	△ 421	94.0

（注）「その他」は、建設資機材のリース等であります。

②売上高

項目	前第2四半期累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）		当第2四半期累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）		増減金額	対前期比
	金額	構成比率	金額	構成比率		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木事業	6,867	76.2	6,235	71.9	△ 631	90.8
建築事業	1,983	22.0	2,326	26.8	343	117.3
不動産賃貸事業	113	1.3	108	1.3	△ 4	95.8
その他	48	0.5	0	0.0	△ 48	0.3
合　計	9,012	100.0	8,671	100.0	△ 341	96.2

（注）「その他」は、建設資機材のリース等であります。

③繰越高

項目	前第2四半期累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）		当第2四半期累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）		増減金額	対前期比
	金額	構成比率	金額	構成比率		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木事業	17,982	89.4	10,968	76.4	△ 7,013	61.0
建築事業	1,960	9.7	3,271	22.8	1,311	166.9
不動産賃貸事業	114	0.6	109	0.8	△ 5	95.4
その他	51	0.3	―	―	△ 51	―
合　計	20,108	100.0	14,349	100.0	△ 5,759	71.4

（注）「その他」は、建設資機材のリース等であります。

【平成 24 年３月期通期業績見通し】

１．受注高につきましては、土木事業は前年の公正取引委員会からの審決に伴う関係発注機関の指名停止等により大きく落ち込んだ受注高を回復すべく、総合評価入札方式への対応強化を図り受注獲得に努めております。また、建築事業は回復傾向にあるマンション事業及び政府の推進施策である学校施設等の耐震補強事業の営業を更に強化することで、受注総額は 192 億円（前年同期比 39.5%増）程度を見込んでおります。

２．売上高につきましては、土木事業の前期繰越工事の減少や東日本大震災の影響が多少残るものの、手持ち工事は順調に進捗する見通しであることから、190 億円（前年同期比 2.4%減）程度を見込んでおります。

３．損益につきましては、売上高の減少に加え、市場縮小による競争激化から工事利益率が低下する見通しであり、営業利益 310 百万円（前年同期比 74.1%減）、経常利益 300 百万円（同 74.8%減）、当期純利益 200 百万円（同 41.7%減）程度と減益予想であります。しかしながら、「安全・品質・コスト」の３点を重点項目として工事施工の効率化、原価管理の徹底、諸経費削減などを一層進めることで、当初計画を上回る利益を見込んでおります。

通期業績予想と前期実績との比較　（単位：百万円）

項　　目	通期予想	前期実績	増減額	増減率	備考
受　注　高	19,220	13,781	5,439	39.5%	２期振りの増加
売　上　高	19,000	19,460	△460	△2.4%	２期連続の減収
営 業 利 益	310	1,198	△888	△74.1%	２期振りの減益
経 常 利 益	300	1,192	△892	△74.8%	２期振りの減益
当期純利益	200	343	△143	△41.7%	２期連続の減益

○土木事業と建築事業の比較

①受注高　（単位：百万円）

項　　目	通期予想	前期実績	増減額	増減率
土木事業	13,000	7,844	5,156	65.7%
建築事業	6,000	5,706	294	5.2%

②売上高　（単位：百万円）

項　　目	通期予想	前期実績	増減額	増減率
土木事業	13,500	15,105	△1,605	△10.6%
建築事業	5,300	4,112	1,188	28.9%